

原子力 防災 について

やさしい
日本語

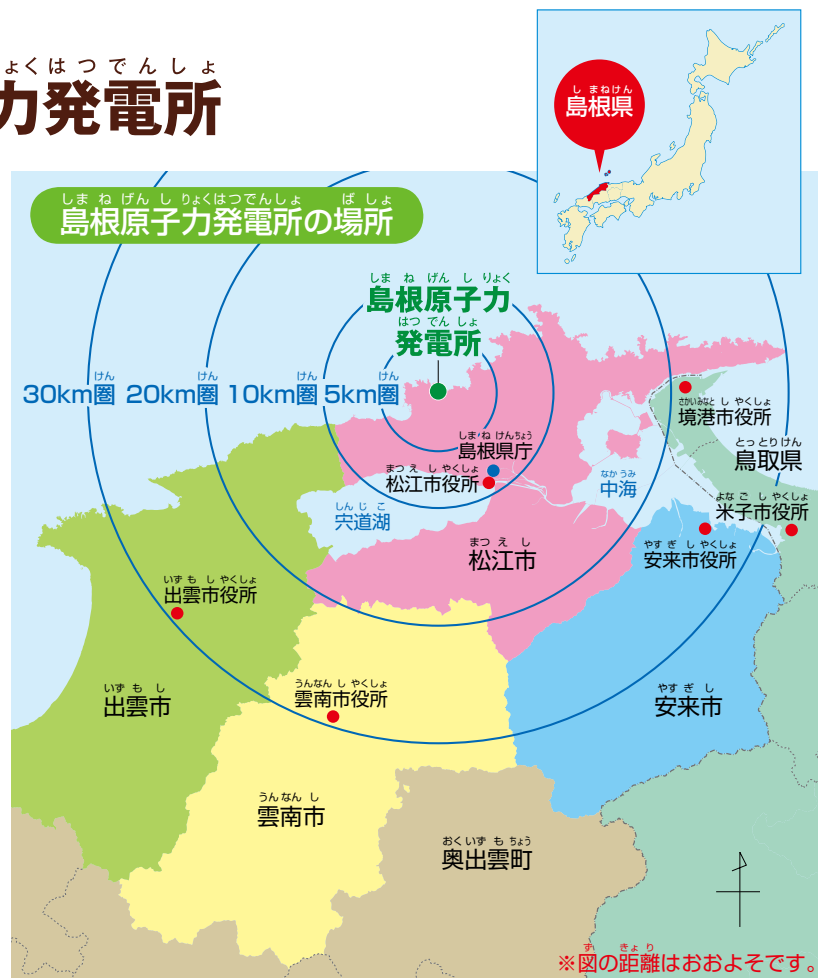
1 島根県にある原子力発電所

島根県には、松江市鹿島町に中国電力の島根原子力発電所があります。



※3号機は建設中です。

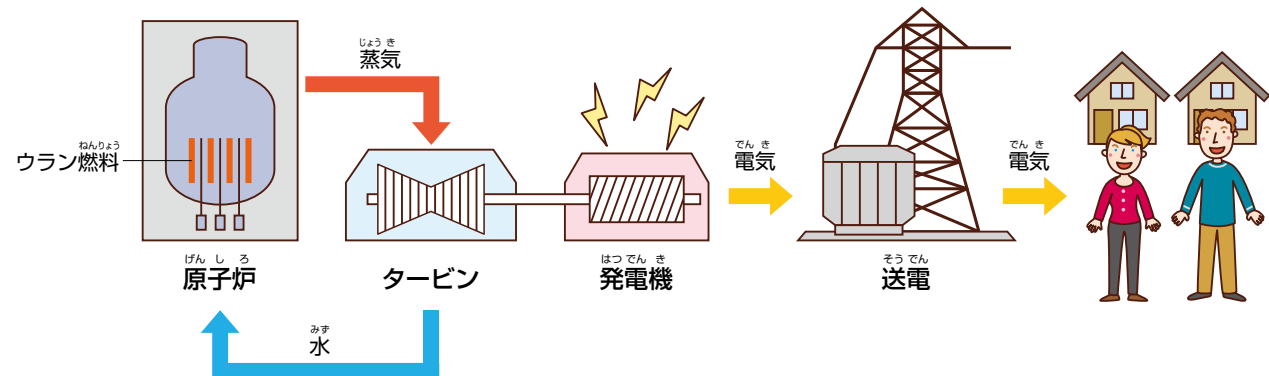
原子力発電所(原子力で電気を作るところ)で事故がおこったとき、自分を守るために、必要なことを知っておきましょう。



※図の距離はおおよそです。

2 原子力の発電

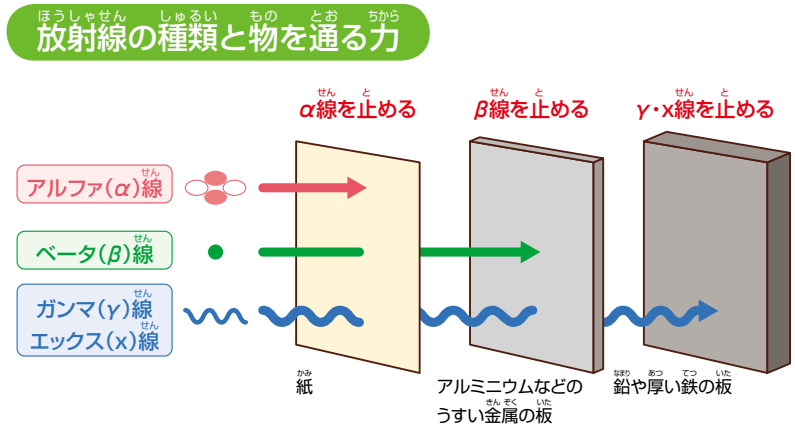
原子力発電所では、ウランを燃料にして熱を作ります。この熱で水を蒸気にします。その蒸気でタービン(羽根車)と発電機を回して発電します。



3 放射線や放射性物質

原子力で電気をつくる時には、放射性物質(放射能がある物質)も生まれます。放射性物質からは放射線が出ています。

- 放射線**
- 見えない、においが無い。体に感じない。
- 放射線にはいくつかの種類があります。種類によって物を通る力が違います。
- 放射能を計る器械で、正しく測ることができます。



4 原子力災害

原子力災害とは、原子力発電所の外に放射性物質がたくさん出ることです。たくさんの放射性物質を吸い込んだり、放射性物質から出る放射線をたくさん受けると体によくありません(放射線被ばく)。

※放射性ブルームとは、放射性物質を含む空気のかたまりのことです。
※災害が発生したときのイメージ(放射性ブルームは見えません。)



外部被ばく

放射線を体を受けることを「放射線被ばく」といいます。

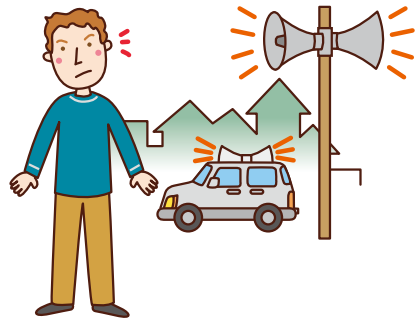
体の外にある放射性物質から出る放射線を受けることを「外部被ばく」といいます。

内部被ばく

放射性物質がついた物を食べたり、吸い込んだりすると、放射性物質が体の中に入ります。体の中から放射線を受けることを「内部被ばく」といいます。

5 事故がおこったとき

連絡をよく聞く。



- あわてず、連絡をよく聞きましょう。外にいても、市の広報車などが情報を知らせます。
- 市からの放送・テレビなどで、どうすればよいかをたしかめます。

おちついて行動する。



- 家の中にいたほうがよいときと、遠くに逃げたほうがよいときがあります。指示を聞いて行動します。

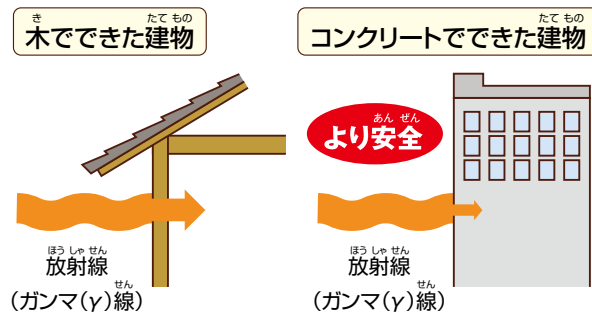
屋内(建物や家の中)に入るよう指示が出たとき



- 外からの空気が入らないよう、窓やドアを閉め、エアコン・換気扇をとめます。
- 窓からは離れます。
- 外から帰ってきたら手や顔を洗い、服は着替えます。着替えた服はビニール袋に入れ、袋の口をとめます。



- 大雨・地震とちがひ、体に感じません。(見えない、におわない、肌に感じないなど)
- 被害の大きさが自分ではわかりません。



島根県や市の指示にしたがって行動することが大切です。

コンクリートでできた建物は放射線をとおしにくく、より安全です。

日常生活と放射線

放射線は、わたしたちの周りにもあります。自然の中にある放射線は、誰もが生まれてからずっと受けつづけています。そして、健康診断でのレントゲンなど、放射線はわたしたちの暮らしのいろいろなところで使われています。

わたしたちが暮らしの中で受けている放射線の量は、とても少ないため健康に問題はなりません。しかし、たくさんの量を受けると体によくありません。放射線について正しく知っておくことが大切です。

